

G-2 最近経験した高圧酸素療法の2, 3の症例

福岡八木厚生会病院

八木博司

九州がんセンター

植田英彦

当施設でこれまで行った高圧酸素療法の経験は、第1表に示す如く181例で、のべ約1100回の高圧治療を行っている。

CLINICAL CASES OF THE HYPERBARIC OXYGEN THERAPY

— August 31, 1976 —

Peripheral vascular diseases	66	678
Ileus	66	161
Burn	7	35
Infected wound (Gas gangrene)	9	72
Malignant tumor	3	16
CO-poisoning	8	32
Caisson disease	4	15
Miscellaneous	18	92
	181	1101

これら症例の詳細については、これまで数次の学会誌上で発表しているので、ここでは省略するが、私共は最近急性一酸化炭素中毒で9日ぶりに意識が出現した1例と、*Clostridium Welchii* 以外のガス発生菌感染症の1例を経験し、また、直腸膀胱破裂、骨盤骨折の1例に術後早期に高圧酸素療法を開始して著効を得た症例を経験したので報告した。

細菌感染に対する高圧酸素の効果に関しては第1図に示す如く、2絶対気圧、20時間の純酸素環境下に細菌を放置した場合、 10^5 倍、 10^6 倍に希釈した細菌のグループにおいて菌は全く繁殖せず、その後1気圧空気的环境下にもどすと菌の増殖を認めた。従って、高圧酸素には菌の成長を抑制する作用が強いと考えられ、6時間間隔で2絶対気圧2時間処理したグループにおいても同様の傾向を認めた。

Effect of hyperbaric oxygen on bacterial growth .

		H. O. P. (2 ATA 20hours)	Control
E. coli	10^{-5}	—	+
	10^{-6}	—	+
Ps. aeruginosa	10^{-5}	—	+
	10^{-6}	—	+
Staphylo. aureus	10^{-5}	—	+
	10^{-6}	—	+

(Room temp . 27 ~ 30°C)

一方、エンドトキシショックの実験において、対照群が100%死亡する条件下では高圧酸素療法は無効という成績を得ていたので、膀胱、直腸破裂、骨盤骨折の42才男子の症例に対して、術後1日目から2絶対気圧1時間半の高圧酸素療法を開始した。

本例に対する高圧酸素療法は1日1回10日間施行したが、術後重篤な合併症を併発する事なく、尿瘻及び尿道狭窄の治療に難渋したが、術後1年の現在歩行可能となり、元気に日常生活を楽しんでいる。

ガス発生菌感染症の51才男子の症例は受傷後3日目に来院したが、右肘関節部の受傷創をふくめて、ガスは右上肢全体から右頸部、右胸壁に認められ、Brunnelkampの様式に従って緊急高圧酸素療法を行った。

本例ではClostridium Welch' iiを検出できず、球菌と桿菌を検出した点からSynergistic necrotizing cellulitisと考えられ、入院後24日目上肢を切断する事なく全治退院した。

急性一酸化炭素中毒の35才女子の症例は、治療開始後10時間目に来院、高圧酸素療法で9日ぶりに意識が回復した点興味深いと考えられたので報告した。

以上、最近経験した高圧酸素療法の2、3の症例について報告した。